

尋常小學唱歌

第三學年用

文部省



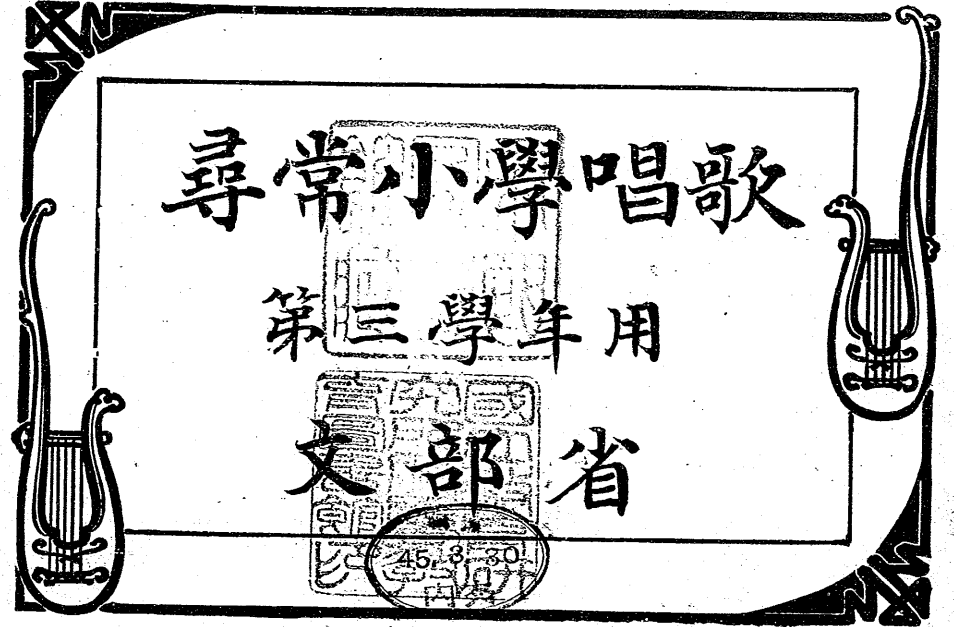
K1307
2
3

538

尋常小學唱歌

第三學年用

文部省



緒 言

- 一、本書ハ本省内ニ設置セル小學校唱歌教科書編纂委員ヲシテ編纂セシメタルモノナリ。
- 二、本書ノ歌詞中、尋常小學讀本所載以外ノモノニ就キテハ、修身・國語・歴史・地理・理科・實業等諸種ノ方面ニ涉リテ適當ナル題材ヲ求メ、文體用語等ハ成ルベク讀本ト歩調ヲ一ニセンコトヲ期セリ。
- 三、本書ノ曲譜ハ排列上其ノ程度ニ就キテ多少難易ノ順ヲ追ハザルモノナキニアラズ、是其ノ歌詞ノ性質上已ムヲ得ザルニ出デタルナリ。

明治四十四年六月

文 部 省

目 次

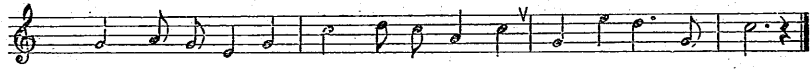
一 春が来た.....2	一一 日本の國.....22
二 かがやく光.....4	一二 雁.....26
三 茶 摘.....6	一三 取入れ.....28
四 青 葉.....8	一四 豊臣秀吉.....30
五 友だち.....10	一五 皇后陛下.....32
六 汽 車.....12	一六 冬の夜.....34
七 虹.....14	一七 川中島.....36
八 蟲の聲.....16	一八 おもひやり.....38
九 村 祭.....18	一九 港.....40
一〇 鴨 越.....20	二〇 かぞへうた.....44

春が来た

♩=120



一 ハ ル ガ キ タ ハ ル ガ キ タ ド コ ニ キ タ
 二 は な が さ く は な が さ く ど こ に さ く
 三 ト リ ガ ナ ク ト リ ガ ナ ク ド コ デ ナ ク



ヤ マ ニ キ タ サ ト ニ キ タ ノ ニ モ キ タ
 ヤ マ ニ キ タ サ ト ニ キ タ ノ ニ モ キ タ
 ヤ マ デ ナ ク サ ト デ ナ ク ノ デ モ ナ ク

春が来た

二

春が来た

三

一、春が来た

一、春が来た、春が来た、どこに来た。
 山に来た、里に来た、

野にも来た。

二、花が咲く、花が咲く、どこに咲く。

山に咲く、里に咲く、

野にも咲く。

三、鳥が鳴く、鳥が鳴く、どこで鳴く。

山で鳴く、里で鳴く、

野でも鳴く。

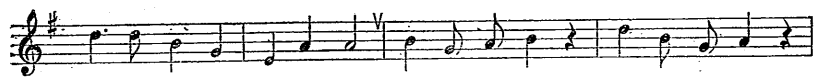
(尋常小学讀本卷五所載)

104

かがやく光



一 ミユミ ノハズニ キンイロノ トビ
二 むかしのひかり いまもそのま



カガヤク ヒカリ キラキラ ビカビカ
むねのくんだり きらきら びかびか



マナーコ クラシニグユク ソルモノ
ほまれかがやくにつぼんぐんじん

二、かがやく光

一、御弓の弭に

金色の鵝

かがやく光

きらくびかく。

眼くらんで

逃行くわるもの。

二、昔の光

今もそのまま、

むねの勳章

きらくびかく。

譽かがやく

日本軍人

三、茶摘

一、夏も近づく八十八夜、
野にも山にも若葉が茂る。

「あれに見えるは茶摘ぢやないか。」

あかねだすきに菅の笠。」

二、日和つゞきの今日此頃を

心のどかに摘みつゝ歌ふ。

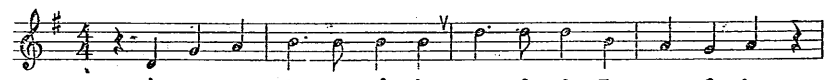
「摘めよ摘め摘め摘まればならぬ。」

摘まにや日本の茶にならぬ。」

茶摘

♩=104

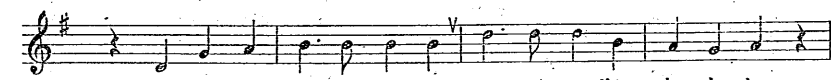
茶摘



一 ナツモチカヅクハチジフハチヤ
二 ひよりつづきのけふこのごろを



ノニモヤマニモワカバガシゲル
こころのどかにつみつつうたふ



アレニミエルハチャツミチャナイカ
つめよつめつめつまねばならぬ

六

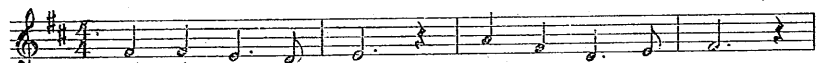


アカネダスキニスゲノカサ
つまにやにほんのちやにならぬ

青 葉

♩ = 100

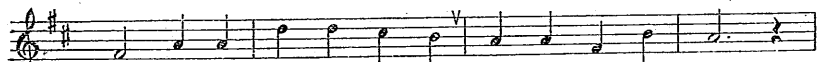
音 第



一 ア メ ガ ヤ ム ク モ ガ チ ル
二 か せ が ふ く き が ゆ れ る

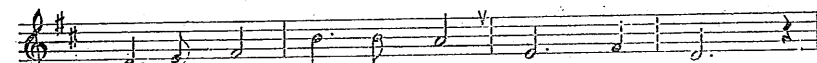


ク モ ノ ア ト ニ ウ ネ ツ ネ ト
き ぎ の か げ は ゆ ら ゆ ら と



ア フ バ フ カ バ ノ ヤ マ ヤ マ ガ
み づ の お も て に ち の う へ に

八



ト ホ ク チ カ ク ノ コ ル
あ を く く ろ く う つ る

四、青 葉

一、雨が歌む、雲が散る。

雲のあとにうねくと、

青葉若葉の山々が

遠く近く残る。

二、風が吹く、木が揺れる。

木々の影はゆらくと、

水の面に地の上に

青く黒く映る。

音 第

九

友 だ ち

♩=100

友
だ
ち

一 コ ノ テ ガ シ ハ ノ ウ ラ オ モ テ
ニ い ろ も か も し る き み な ら で

カ ハ ラ ス ヒ ト ラ ト モ ト セ ヨ
た れ に か み せ ん う め の は な

ヨ レ ズ ヨ キ ヒ ト ヨ キ ト ヒ ト
こ こ ろ の と も は か く こ そ と

ラ シ ヘ シ ム カ シ ノ コ ト ノ ハ ラ

ソ ス ル ナ ヨ ソ ス ル ナ ヨ

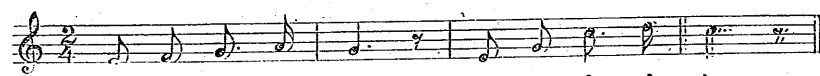
五、友 だ ち

- 一、このてがしはの裏表
かはらぬ人を友とせよ、
これぞよき人よき友と
- 教へし昔のことはを
忘るなよ。
- 二、色も香も知る君ならで
誰にか見せん梅の花
心の友はかくこそと
教へし昔のことはを
忘るなよ。

虹

♩ = 72

虹



一 ニ シ ガ デ タ ニ シ ガ デ タ
二 に し が で た に し が で た



ソ ラ ヲ イ シ ャ ウ ニ ミ タ ラ タ ラ
そ ら を い ち め ん み づ と み て



ナ ナ ッ ノ イ ロ ニ ソ ネ ヲ ケ タ
さ ん じ ゃ る り を ち り ば め た



ダ ン ダ ラ モ ヤ ウ ハ デ モ ヤ ウ
て ん に よ の は し よ た ま の は し

一四

七、虹

一、虹が出た。

空を衣裳に見立てたら、
七つの色に染分けた
だんだら模様はで模様

二、虹が出た。

虹が出た。
空を一面水と見て、
珊瑚や瑠璃をちりばめた
天女の橋よ玉の橋。

虹

一五

八、蟲のこゑ

一、あれ松蟲まつむしが鳴ないてゐる。

ちんちろく　　ちんちろりん。

あれ鈴蟲すずむしも鳴なき出でした。

りんく　　りいんりん。

あきの夜長よながを鳴なき通とおす

あゝおもしろい蟲むしのこゑ。

二 きりく　　きりきりす。

がちゃく　　くつわ蟲むし。

あとから馬うまおひおひついて

ちよんく　　すいつちよん。

秋あきの夜長よながを鳴なき通とおす

あゝおもしろい蟲むしのこゑ。

(尋常小學校讀本卷五所載)

蟲のこゑ

♩=80

一 アレマツムシガ ナイテキル チンチロ チンチロ
 二 きりきり きりきり きりきり す が5や が5や が5や が5や

チンチロリン アレスズムシモ ナキダシタ
 くつわむし あとから うまおひ おひついて

リンリンリンリン リンリン アキノヨナガヲ
 らんらんらんらん すいつらん あきのよながを

ナキトホス アアオモシロイムシノコエ
 なきとほす ああおもしろいむしのこゑ

蟲の聲

一六

九、村 祭

一、村の鎮守の神様の

今日ほめてたい御祭日。

どんくひやらら、どんひやらら、

朝から聞える笛太鼓。

二、年も豊年満作で、

村は總出の大祭。

どんくひやらら、どんひやらら、

夜まで賑ふ宮の森。

三、治まる御代に神様の

めぐみ仰ぐや村祭。

どんくひやらら、どんひやらら、

聞いても心が勇み立つ。



村 祭

♩=84

村 祭

Musical score for 'Village Festival' (村祭) in G major, 2/4 time, tempo 84. The score consists of four staves of music with lyrics underneath. The lyrics are written in a mix of hiragana and katakana characters.

Lyrics (Staff 1):
 一ム ラ ノ チ シ ヨ ノ カ ミ サ マ ノ
 二ム ラ ノ チ シ ヨ ノ カ ミ サ マ ノ
 三ム ラ ノ チ シ ヨ ノ カ ミ サ マ ノ

Lyrics (Staff 2):
 ケ フ バ メ デ タ イ オ マ ツ リ ビ
 ヲ ラ ミ ソ フ ヤ オ ラ マ マ ツ ツ リ

Lyrics (Staff 3):
 ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ ドンドンヒヤララ ドンヒヤララ

Lyrics (Staff 4):
 ア サ カ ラ キ コ エ ル フ エ タ イ コ
 ヤ イ テ コ ロ コ ロ

一〇、鶴越

一、鹿も四足、馬も四つ足、この坂路、道理はないと、眞先に。

二、つづく勇士も、鶴越に、着いて見れば、眞下に見えて、眞最中、裏の山より、さか落しに、驚きあわて、落ちてゆく。

三、油断大敵、平家の陣屋は、戦今や、三千餘騎の、平家の一門、屋島をさして

鶴越

♩=120

Music score for 'Tsurigoshi' (鶴越) in 4/4 time, tempo 120. The score consists of four staves of music with Japanese lyrics written below each staff.

Lyrics (Staff 1): シンリ アセヨ ツラマ ヨたヤ モきノ マツラ ムいウ シもキ アシテ ヅうイ ヨゆタ モクン カブダ シツユ

Lyrics (Staff 2): チばニ 一れ一 ミみシ カテト サいオ ノーカ コツサ クにノ ユエキ エゴヨ コリン ノどゼ カよシ シひサ

Lyrics (Staff 3): トテテ イエツ ナミア ハにキ リたロ ツレド ダまオ はン イヤモ ナんチ セぢイ コのノ ノけケ マいイ ウへハ

Lyrics (Staff 4): ニゆう キいユ サさテ ツツチ マまオ ネヤテ ツまん シー一 ヨいサ ウひラ シヤカマ イたシ タた

日本の國

♩=100

日本の國

ニ ホン ノ ク ニ ハ マ ツ ノ ク ニ
ニに ほん の く に は は な の く に

ミ ア ゲ ル ミ ネ ノ ヒ ト ツ マ ツ
う め も も さ くら ふ ぢ あ や め

ハ マ ベ ハ ツ ツ ク マ ツ バ ラ ノ
し ら つ づ む す ぶ あ き の の の

エ ダ ブ リ ス ベ テ オ モ シ ロ ヤ
ち ぐ さ の は な も お も し ろ や

三三

ツ ケ テ ナ ニ オ フ マ ツ シ マ ノ ニ
わ け て さ くら の よ し の や ま ニ

オ ホ シ マ コ ジ マ ソ ノ ナ カ
ひ ー と め せ ん ぼ ん さ き み ち て

カ ヨ フ シ ラ ホ ノ ヲ ツ ク シ マ
か す み か く ー も か う つ ー く し や

日本の國

三三

一、日本の國

一、日本の國は松の國。

見上げる峯の一つ松、

はまべはつゞく松原の

枝ぶりすべておもしろや。

わけて名におふ松島の

大島小島、その中を

通ふ白帆の美しや。

二、日本の國は花の國。

梅桃櫻藤萱蒲、

白つゆむすぶ秋の野の

ちぐさの花もおもしろや、

わけてさくらの吉野山、

一目千本咲きみちて、

かすみか雲か美しや。

(尋常小學校讀本卷六所載)

雁

♩-764

一 カ リ ガ ツ タ ル ナ イ テ ツ タ ル
ニ か り が お り る つ れ て お り る

ナ ク ハ ナ グ キ カ ヨ ロ コ ビ カ
つ れ は お や こ か と も だ ち か

ッ キ ノ サ ヤ カ ナ ア キ ノ ヨ ニ
し も の ま し ろ な あ き の た に

サ ツ ニ ナ リ カ ギ ニ ナ リ
む つ ま し く つ れ だ ち て

雁

二六

ヲ お タ リ ル カ カ リ リ オ お モ シ ロ ヤ

一三、雁

一、雁がわたる。

鳴いてわたる。

鳴くはなげきか喜か。

月のさやかな秋の夜に、

棹になりかきになり

わたる雁、おもしろや。

二、雁がおりる。

連れておりる。

連は親子か友だちか。

霜の眞白な秋の田に、

睦ましくつれだちて

おりる雁、おもしろや。

雁

二七

豊臣秀吉

♩=104

ニヒヤクネン コノカタ ミテダレ シンテ んカレ モ
 二よりよくをもちひて てうせ んせむ ば
 センナリ ベウタニ ヒトクニ イヅレバ
 はちだらみるまに わがてに やぶられ
 シカイノ ナミカゼ タチマチ ヲサマノ
 こくわう かがーや ざこーく の あがーりて
 ロクジフ ヨシウハモ クサノキ モシ ナビク
 しーひやく よしうはも クサノキ モシ ナビク

ア ア タ イ カフ ホウ タ イ カフ

一四 豊臣秀吉

一、百年このかた 亂れし天下も、

千なり瓢箪 一たび出づれば、

四海の波風 忽ち治り、

六十餘州は 草木も靡く。

あゝ 太閤 豊太閤。

二、餘力を用ひて 朝鮮攻むれば、

八道見る間に 我が手に破られ、

國光かがやき 國威あがりて、

四百餘州も 戦き震ふ。

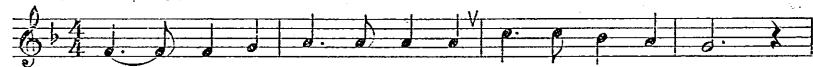
あゝ 太閤 豊太閤。

一五、皇后陛下

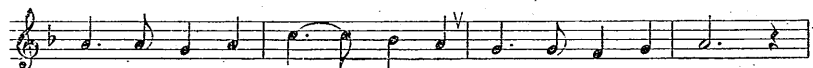
一、天に日月ある如く
 並びています 御光を
 仰ぐもたかき 大宮居
 二、國土あまねく
 雨にも似たり、
 露のかゝらぬ 御恵の
 草もなく、
 袖も無き
 三、寒さおほはん
 貧しの民も おん母と、
 畏れれども 仰ぎ見る。
 四、時計の針の
 業をはげめの 絶間なく
 學びの子等も 忘れめや。

皇后陛下

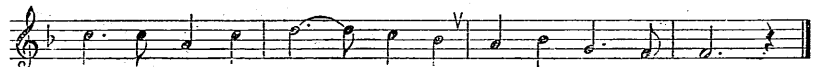
♩=84



クすま
トはナ
ゴほモ
ルるデ
アうソ
ツクン
グねハ
ツまホ
ジあオ
ニドサ
ンくム
一一一
テコサ
一二三四



ヲのト
リみハ
カぐハ
とめン
ミみオ
スリモ
マタミ
一一一
イにタ
ヲもノ
ビにシ
ラめツ
ナあマ



キクル
ヤなミ
ミもギ
ホさフ
オクア
キぬモ
カラド
一カレ
タカケ
モノコ
グゆシ
フ一一
アツカ

冬 の 夜

♩=84

冬
の
夜

トモシビ—チ—カクキヌヌフ—ハハハ
ニカ—りの—は—たになはなふ—ちちは

ハ—ルノ—アソビノタノシサカタル
す—ぎし—いくさのてがらをかたる

キナラブ—コドモハユ—ビヲ—ヲリツツ
ぬならぶ—こどもはね—むさ—わすれて

ヒ—カズ—カゾヘテヨロコビイサム
み—みを—かたむけこぶしをにぎる

三四

キロリビハート—ロ—ト—ロ—ソ—ト—ハ—フ—ブ—キ

冬
の
夜

一六、冬 の 夜

一、燈火ちかく衣縫ふ母は
春の遊の樂しき語る。

居並ぶ子どもは指を折りつゝ、
日數かぞへて喜び勇む。

圍爐裏火はとろく
外は吹雪

二、圍爐裏のはたに繩なふ父は
過ぎしいくさの手柄を語る。

居並ぶ子どもはねむさ忘れて
耳を傾けこぶしを握る。

圍爐裏火はとろく
外は吹雪

一七、川中島

一、千曲犀川二川の間

甲越二軍の戦場ここか。

海津の城跡僅に残り、

見渡す限り桑畑しげる。

二、川の瀬音は人馬の聲か。

亂るるすすきは旗指物か。

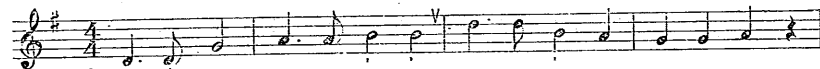
昔の英雄今はた在らず、

記念は野べに苔むす墓石。

川中島

♩=104

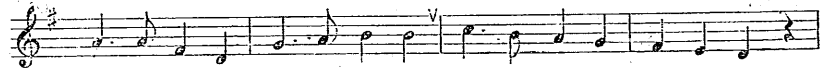
川中島



一チクマサイガハニセンノアヒダ
ニかはのせおとはじんばのこゑか



カフユツニグンノセンヂヤウココカ
みだるるすすきははたさしものか



カイヅノシロアトワヅカニノコリ
むかしのえいゆういまはたあらず



ミワタスカギリクハバタシゲル
かたみはのべにこけむすぼせき

三六

一八、おもひやり

一、よその悲しみ苦しみを

わが身の上にはひき較べ

あはれと思ふ心こそ、

人の尊き故と知れ。

二、わが身ばかりを思はずに、

人の身の上思ひやれ。

氣儘にひとり振舞はば、

情知らずと誇られん。

おもひやり

♩=88



一 ヲ ャ ノ カ ナ シ ミ ク ル シ ミ ヲ
二 わ が み ば か り を お も は す に



ワ ガ ミ ノ ウ ヘ ニ ヒ キ ク ラ ベ
ひ と の み の う へ お も ひ や れ



ア ハ レ ト オ モ フ コ コ ロ コ ソ
き ま ま に ひ と り ふ る ま は ば



ヒ ト ノ タ フ ト キ ユ エ ト シ レ
な さ け し ら す と そ し ら れ ん

おもひやり

三八

港

♩ = 66

港



一 コー コー ハ ミ ナ ト カ ハ ト バ ノ ア タ リ
 二 か ら げ に う ー か ぶ こ な た の し や う せん
 三 キー ケ ヤ イ リ フ ネ キ テ キ ヲ ナ ラ ス
 四 ふ ー ね の で い り の い よ い よ し げ く



オ ホ プ ネ コ プ ネ ソ ノ カ ズ イ ク ツ
 ヨ ー る ぐ さ ま な き か な た の ぐ ん かん
 イ ズ レ ノ ク ニ ヨ リ コ コ へ と ハ の ツ キ シ
 ひ ー び に さ か ゆ る み な と の さ ま よ

四〇

港



ナ ラ ブ ホ バ シ ラ ハ ヤ シ ヲ ナ シ テ
 つ づ く あ ひ だ を ぬ ひ つ つ は し る
 ミ ヨ ヤ デ フ ネ ハ ケ ム リ ヲ ハ イ テ
 く に の ふ き や う の ま し ゆ く し る し



ツ ド ヘ ル サ マ ノ ニ ギ ー ハ シ ヤ
 こ じ よ う き は し け い そ ー が し や
 バ ン リ モ ユ ク カ イ サ ー マ し や
 お も へ ば げ に も た の ー も し や

四一

一九、港

一、ここは港か波止場のあたり、
 大船小船其の數いくつ。
 列ぶ檣林をなして
 集へる様の賑しや。

二、

輕げに浮ぶ此方の商船、
 ゆるぐ様なき彼方の軍艦。
 つゞく間を縫ひつゝ走る
 小蒸氣解忙しや。

三、聞けや入船汽笛をならず。

何れの國よりこゝへは着きし。
 見よや出船は烟を吐いて
 萬里もゆくか勇ましや。

四、船の出入のいよいよ繁く、

日々に榮ゆる港の様よ。
 國の富強の増しゆくしるし、
 思へばげにも頼もしや。

二〇、かぞへ歌

一つとや、人々忠義を第一に

あふげや高き君の恩國の恩

二つとや、二人のおや御を大切に

思へやふかき父の愛母の愛

三つとや、みさは一つの枝と枝

仲よく暮せよ兄弟姉妹

四つとや、善き事たがひにすゝめあひ

悪しきをいさめよ友と友人と人

五つとや、いつはりいはぬが子供らの

學びのはじめを慎めよ いましめよ

六つとや、昔を考へ今を知り

學びの光を身にそへよ 身につけよ

七つとや、難義をする人見るときは

力のかぎりいたはれよ あはれめよ

八つとや、病は口より入るといふ

飲食物氣を付けよ 心せよ

九つとや、心はかならず高くもて

たとひ身分はひくゝとも 軽くとも

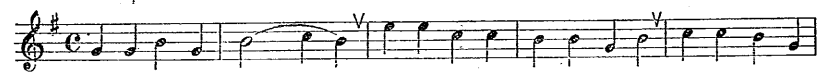
十とや、遠き祖先のをしへをも

守りてつくせ家のため 國のため

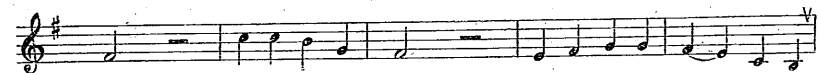
尋常小學校本巻六所載

かぞへ歌

♩=120



一ヒトツトヤ 一ヒトピト チユウギヲ ダイイテ
ニふたつとや 一ふたりの おやごを たいせつ



ニ ダイイテ ニ アンゲヤ ターカキ
に たいせつ に おもへや ふーかき



キミノオン 一クニノオン
ちちのあい 一ははのあい

K130.7-2-3

發行所 會社 國定教科書共同販賣所

株式會社 東京市日本橋區新右衛門町十六番地

印刷所 博文館印刷所

東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷者 水谷景長

東京市小石川區久堅町百〇八番地

不許複製

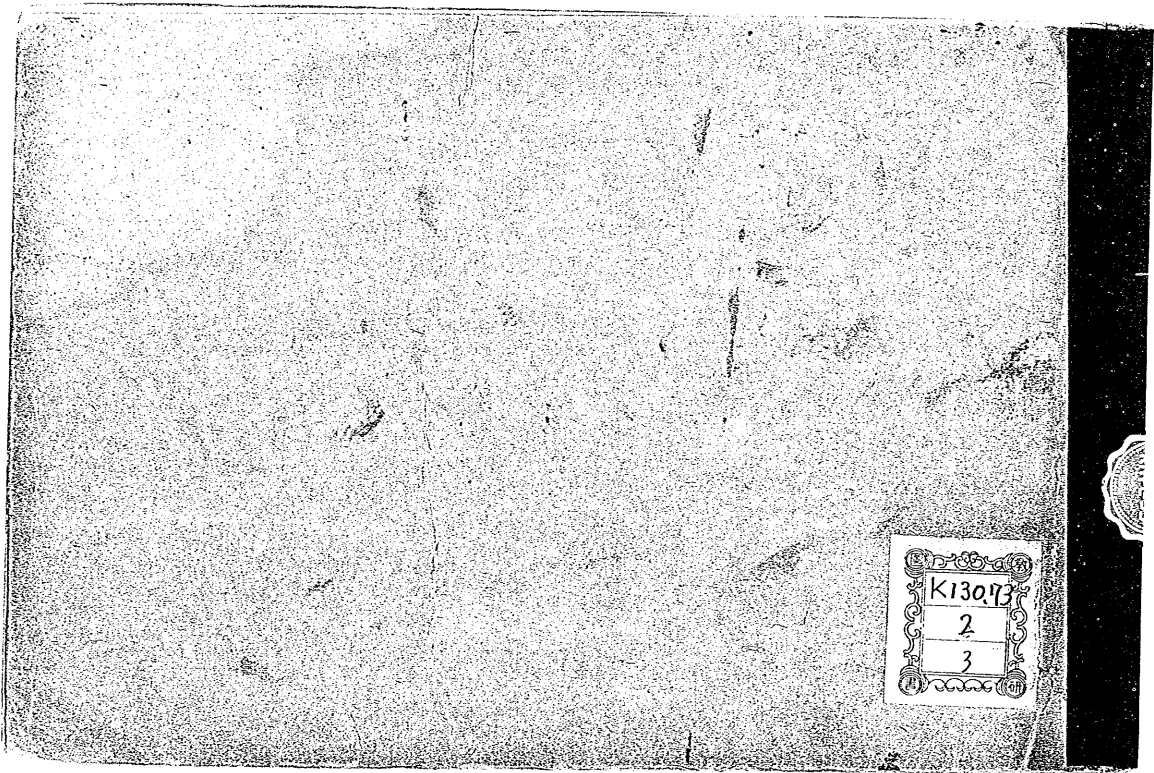
發行者

代表者 大橋新太郎
株式會社 國定教科書共同販賣所
東京市日本橋區新右衛門町十六番地

著作權者 文部省

明治四十五年三月三十日發行
明治四十五年三月廿七日印刷

定價金五錢
尋常小學唱歌第三學年用



K130.73
2
3